

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	新見市立思誠小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	27
児童数	57	49	54	68	71	70	2	371	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学びのある授業を目指して ～算数科を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

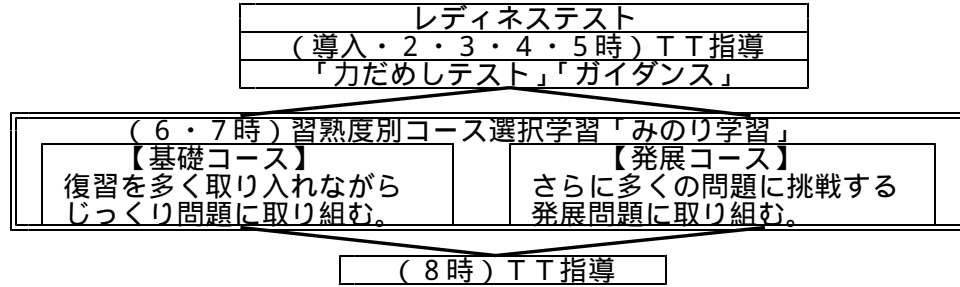
・全学年・算数科（子どもの理解度・習熟度に差が出やすい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	<p>テーマ 「確かな学びのある授業をめざして ～算数科を通して～」</p> <p>研究の見通し 「基礎基本の定着を図るために個に応じた指導を充実させ、さらに、子ども達が自ら課題をつかみ、解決する能力を伸ばせば、一人一人に「確かな学び」が身に付く」</p> <p>研究の内容・方法 習熟度別学習・課題別学習を取り入れた個に応じた指導方法・指導体制の工夫</p> <p>・習熟度別・課題別学習のコース選択学習を「みのり学習」とし、単元構成や個に応じた指導法を工夫する。</p> <p>《例1》 習熟度別学習において、数学的な考える力を身に付けるために「みのり学習」を取り入れた単元構成 【少人数指導の場合】</p> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td>レディネステスト (導入)TT指導</td> </tr> </table> <p>↓</p> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td>(2・3時)少人数指導【均質集団】 「力だめしテスト」「ガイダンス」</td> </tr> </table> <p>↓</p> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">(4・5・6時)習熟度別コース選択学習「みのり学習」</td> </tr> <tr> <td style="width: 33%;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【補充コース】 復習を取り入れながら意味理解が確実になるように、細かなステップでじっくり問題に取り組む。</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 33%;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【基礎コース】 ヒントや助言を手がかりにして自力解決をする。</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 33%;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【発展コース】 自力解決で、多様な解決方法を考える。発展問題に取り組む</td> </tr> </table> </td> </tr> </table> <p>↓</p> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td>(7・8時)TT指導</td> </tr> </table> </div>	レディネステスト (導入)TT指導	(2・3時)少人数指導【均質集団】 「力だめしテスト」「ガイダンス」	(4・5・6時)習熟度別コース選択学習「みのり学習」			<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【補充コース】 復習を取り入れながら意味理解が確実になるように、細かなステップでじっくり問題に取り組む。</td> </tr> </table>	【補充コース】 復習を取り入れながら意味理解が確実になるように、細かなステップでじっくり問題に取り組む。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【基礎コース】 ヒントや助言を手がかりにして自力解決をする。</td> </tr> </table>	【基礎コース】 ヒントや助言を手がかりにして自力解決をする。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【発展コース】 自力解決で、多様な解決方法を考える。発展問題に取り組む</td> </tr> </table>	【発展コース】 自力解決で、多様な解決方法を考える。発展問題に取り組む	(7・8時)TT指導
レディネステスト (導入)TT指導													
(2・3時)少人数指導【均質集団】 「力だめしテスト」「ガイダンス」													
(4・5・6時)習熟度別コース選択学習「みのり学習」													
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【補充コース】 復習を取り入れながら意味理解が確実になるように、細かなステップでじっくり問題に取り組む。</td> </tr> </table>	【補充コース】 復習を取り入れながら意味理解が確実になるように、細かなステップでじっくり問題に取り組む。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【基礎コース】 ヒントや助言を手がかりにして自力解決をする。</td> </tr> </table>	【基礎コース】 ヒントや助言を手がかりにして自力解決をする。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【発展コース】 自力解決で、多様な解決方法を考える。発展問題に取り組む</td> </tr> </table>	【発展コース】 自力解決で、多様な解決方法を考える。発展問題に取り組む								
【補充コース】 復習を取り入れながら意味理解が確実になるように、細かなステップでじっくり問題に取り組む。													
【基礎コース】 ヒントや助言を手がかりにして自力解決をする。													
【発展コース】 自力解決で、多様な解決方法を考える。発展問題に取り組む													
(7・8時)TT指導													

《例2》 習熟度別学習において、主に計算技能の定着を図る「みのり学習」時間を取り入れた単元構成

【TT指導中心の場合】



- ・一人一人の個性(適性・理解度)が生かされるようにコースを設定し、固定化しないようにする。(指導者・教室)
- ・保護者への十分な説明を行う。
「一人一人を大切にしたい指導について」配布、「算数だより」「学年だより」での算数のお知らせ、学級懇談等を利用しての説明、参観日を利用した授業公開

指導体制の工夫を行う

指導体制	指導者	指導形態	実施学年
少人数指導中心	担任+少人数指導者	・TT指導 ・均質に分けた少人数指導 ・コース別選択学習	4年～6年
TT指導中心	担任+教務	・担任のみの一斉指導 ・TT指導 ・コース選択学習	1年～3年

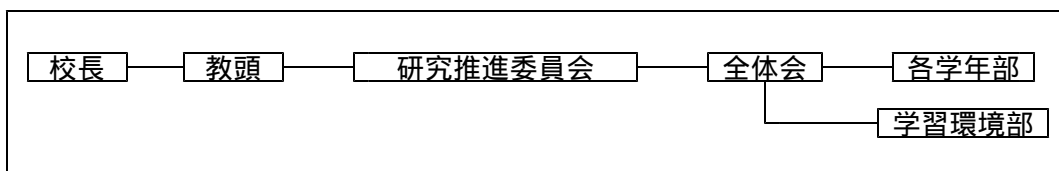
評価を生かした指導を図る

評価実施時	評価の方法	指導方法
単元導入の前	「レディネステスト」	・特に配慮が必要な場合は、補充問題により前学年に戻って基礎基本を指導する。
各時間	「ノート・発言等」 「振り返りカード」 「力だめしテスト」	・机間指導 ・子どもの自己評価を生かす。 ・配慮を要する場合は、習熟度別学習により、補充を行う。 ・基礎基本が十分に身に付いている子どもには進んだ内容の発展問題に取り組ませる。
	「ふりかえりカード」	・(わかった・楽しかった)の項目で自己評価したものをチェックし次時の指導に生かす。
ガイダンス	「コース選択」	・個々へのコース選択のアドバイスを適切に行う。
単元の終末	「まとめテスト」	・配慮を要する場合は、「まんぞくタイム」(補充的時間)等を使って補充を行う。
単元終了後	「アンケート」実施	・学習の定着・興味・関心意欲等の分析を行い、次のコース設定や単元の工夫に生かす。

	<p>発展的・補充的学習のための教材開発 ・補充学習のための自校ドリル（計算）作成，発展学習の工夫</p> <p>問題解決的な学習のあり方を研究実践する。 ・「学び方」を身に付けるための段階的な支援のあり方の工夫 ・学習の振り返りができるノート指導 ・考えるポイントとなる【学びのスキル】の意識付け</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 「確かな学びのある授業をめざして ～算数科を通して～」 研究の見通し 「基礎基本の定着を図るために個に応じた指導を充実させ，さらに，子ども達が自ら課題をつかみ，解決する能力を伸ばせば，一人一人に「確かな学び」が身に付く」</p> <p>研究の内容・方法 習熟度別学習・課題別学習を取り入れた個に応じた指導方法・指導体制の工夫 ・少人数指導・TT指導の充実 ・指導体制の充実</p> <p>評価のあり方と評価と一体となった支援の充実 ・評価規準・基準を作成し，それに照らして十分達成・不十分であるかの評価を適切に行う。不十分であると評価した場合は，的確な援助を行う。 ・子ども自身が自分の学習状況や学びのスタイルに合致したコースや課題を選択できる自己評価の工夫をする。</p> <p>発展的・補充的学習のための教材開発 問題解決学習の充実 素地づくりの取り組み</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別課題別コース選択学習を「みのり学習」として各単元のなかに位置付け，全学年で実践することができた。一人一人に応じた指導方法が学年毎に明らかになってきた。また，校内の時間割を調整し，少人数指導の加配教員と教務が加わり，指導体制も整いつつある。 ・ 「みのり学習」を取り入れたことは，少人数指導の可能な上学年だけでなく，下学年のTT指導でも，子どもの「もっとやりたい」という充実感や満足感をもたせることができた。また，毎時間のふりかえりカードを見ると，「分かった」「楽しかった」の項目に「おおむね満足である」と答える子どもが多くなった。学年の実態に応じたコース選択学習を取り入れたことによって，今まで以上に子どもの意欲的な取り組みも見られるようになった。 ・ 単元に入る前にレディネステストを行い，子どもの実態把握をした上で，既習内容の理解度や定着度を基に，どの時間で補充が必要になるかを考えて単元を構想した。このことは指導者の共通理解になっただけでなく，指導者が子ども一人一人に目を向けるという授業の基本が大切にされ，子どもの満足感や充実感につながっていった。 ・ 1学期と2学期の評価テストの結果を比較すると，到達率は単元によってまちまちであるが，まとめテストの結果を比較してみると，ほぼ全学年において「数学的な考え方」の観点で到達率が上がっているという結果が出た。学力差の大きい学級ほど上昇している傾向が見られた。 ・ 具体的な姿としての評価基準を明確にしていくことで，補充的な学習への支援が効果的に行われるようになった
--

2. 今後の課題

- ・ 全単元で「みのり学習」を実施するには指導者の確保が課題である。
- ・ 学習のめあてや目的意識をはっきり持たせて、主体的な学習になるよう工夫していきたい。
- ・ 「みのり学習」のコース選択は子ども自身が行うが、子どもが自分に合ったコースを自己選択できるように、どのような判断材料を提示していくか。
- ・ 子どもの理解度や定着度だけでなく、子どもの学習への粘り強さや学習の適性等も日頃から見取り、コース設定に生かしていく必要がある。
- ・ 習熟度別学習の補充コースでは、基礎基本の達成を重視するあまり、教え込む形になってしまい、子どもの主体的な問題解決的学習が十分にできない傾向にある。問題解決的な学び方を意識した指導の工夫が必要である。
- ・ 学習を深める場面で、意見交流の仕方が十分身に付いていないため、自分の考えをよく分かるように表現したり、友だちの考えを聞き、考えの良さを見いだすところまで深まっていけない。算数的な話し合いの仕方について指導していくことが必要である。
- ・ 今後も、評価基準の見直しをしていくことが必要である。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力調査の実施（年1回）、定期的なアンケート調査（子ども、保護者、指導者）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究授業公開

- 【6月13日】場所：本校 テーマ：算数科「個に応じた指導の工夫」
第5学年「垂直・平行と四角形」～少人数指導・課題別学習
対象：新見公立短期大学
- 【10月7日】場所：本校 テーマ：算数科「個に応じた指導の工夫」
第1学年「たし算」～TT指導
第6学年「分数のかけ算やわり算を考えよう」～少人数指導・習熟度別学習
対象：近隣小中学校
- 【11月11日】場所：本校 テーマ：算数科「低学年の個に応じた指導の工夫」
第2学年「あたらしい計算を考えよう」～TT指導・習熟度別学習
対象：近隣校，学校評議員
- 【12月11日】場所：本校 テーマ：算数科「個に応じた指導と評価」
第4学年「計算の約束を調べよう」～習熟度別コース選択学習
対象：新見市内全小学校
- （予定）
- 【2月13日】場所：本校 テーマ：算数科「問題解決的な学習過程・TT指導」
第3学年「重さをはかろう」～TT指導
対象：新見市内全小学校，新見公立短期大学，学校評議員

【平成16年6月中旬】研究授業公開

【平成16年11月17日】研究授業及び研究の取り組み発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無